

創刊の辞

日本道德教育方法学会会長
兵庫教育大学 谷田 増幸

日本道德教育方法学会では、このたび新たな機関誌として『道德教育論叢』を発刊することとなりました。創刊号の発行に至ったことを心よりうれしく思います。これもひとえにセミナーでの登壇者や機関誌への執筆者をはじめ、会員お一人おひとりのご支援・ご協力の賜物です。誠にありがとうございます。ここまでの経緯について簡単に振り返っておきたいと思います。

学会設立25周年事業として「道德教育動画アーカイブ」(DVDと内容解説書)が作成されたのが、2021年春のことであったと記憶しています。この動画資料は道德教育の多様な議論を深めることを目途に作成されました。ところが、ときはすでにコロナ禍にあり、対面での研究会を実施することがたいへん厳しい状況になっていました。また他方で、本学会としてもその設立趣旨に立ち帰って、研究上の到達点と課題を明らかにし、学会としての存在価値や特徴を追求していくことを会員のみなさまにお願いした時期でもありました。

こうしたなかで新たな活動充実策として2021年9月より実施されたのが、企画委員会と研究委員会の合同提案による「オンライン・リレーセミナー」(仮)でした。2021年度は「道德教育動画アーカイブ」を用いたものも含め計3回実施されました。当初はコロナ禍での学会活動の模索であった側面は否めませんが、今後オンラインが活動充実のための有力な手段になっていく手応えも感じられました。

そこで、これまでの本学会における研究成果の蓄積や各委員会の諸活動を生かして、オンラインセミナー形式を中心とした「道德教育方法に関する理論と実践両面からの総合的な研究」事業を2022・2023年度の2年計画で実施することとなりました。セミナーでは、「授業実践・授業研究」「学習指導要領や教科書」「カリキュラム・思想・歴史・海外の研究動向等」に関わる内容を年間3回程度実施して、研究の成果を積み上げていくこととしました。新しいタイプの機関誌は、セミナーを中心とした研究成果を蓄積して出版物として発刊してはどうかという提案の下、ここに誕生することになりました。

『道德教育論叢』では、当日のセミナーでの概要を解説するだけに留まらず、セミナーを受けての講評や新たな提案を含む諸論考によって再構成されています。言い換えれば、セミナーや機関誌での議論や対話を通して研究をじっくり練り上げていくことにその特色を見出そうとしています。まさに現在進行形の機関誌なのです。結果として多面的・多角的な視点から課題解決に向けて取り組まれた研究や実践の過程そのもの、あるいはその息づかいをこの創刊号においても感じ取っていただければありがたく思います。

今後、この機関誌が会員のみなさまにとって新たな研究成果発表や情報交換の場として活用され、本学会らしい研究の深化の場として位置付けられ、これからの道德教育の研究や実践に大いに資するものになることを期待したいと思います。これからも奮ってご参画いただき、この『道德教育論叢』を本学会のもう一つの大樹へと育てていただければと願う次第です。

最後になりましたが、この機関誌の発刊に当たっては、公益財団法人上廣倫理財団の「道德教育活動助成」を受けて本学会が進めている一連の研究活動の成果であることをここに付記して、お礼の言葉とさせていただきます。